

小中学生新聞くまTOMOで連載中の「ぷれすけとプログラミング」のデジタル教材を活用した特別授業が17日、合志市立合志楓の森小であった。記事を執筆する熊本高専（同市）の教員が5年生114人に、オンラインで配信。プログラミングの面白さを伝授した。

熊本高専と熊日デジタルコンテンツ研究会「e-iabo（イーラボ）」が企画。これまで掲載された記事などをデジタル教材にして、児童がそれぞれのタブレットで学べるようにした。授業では、講師を務めた同高専の藤井慶准教授（45）

プログラミング 楽しく学ぶ

合志楓の森小 オンライン特別授業

がプログラミング言語スクラッチ」について解説。その後、児童たちは熊日のキャラクター「ぷれすけ」を画面上で動かすことで、鬼ごっこなどのゲームが楽しめるプログラムなどを、それぞれに工夫を凝らしながら作った。

藤井准教授は「みんなが作ったプログラムが、世界の人たちを幸せにできる可能性もある。自由に楽しんでほしい」と語り掛けた。授業を受けた市原菜さんは「ぷれすけがプログラムした通り動いたので、すごく楽しかった」と満足そうに笑顔を見せていた。

（藤山裕作）



くまTOMOで連載中の「ぷれすけとプログラミング」のデジタル教材で学ぶ合志市立合志楓の森小の児童＝17日、同市